

中学校第3学年 社会科学学習指導案

1 単元名 消費生活と経済（東京書籍『新編 新しい社会 公民』 pp.120～127）

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領公民的分野（2）「私たちと経済」の「ア 市場の働きと経済」を取り上げたものである。この単元においては経済活動の意義について消費生活を中心に理解することで自立した消費者を目指すことが大切であるとされている。また、本単元は身近な消費生活を基に、消費者の権利、契約、消費者問題、流通の役割について理解し、自分の日常生活と経済との関係に気付く、生徒にとっては身近な学習課題を設定することができる単元である。よって、生徒自身の生活に関わる事柄から学習課題を見だし、調査活動や話し合いを重ねる中で、経済活動の意義をつかみ、主体的な消費者としての態度を身に付けることが可能となる。

さらに、（4）「私たちと国際社会の諸問題」の「ア 世界平和と人々の福祉の増大」「イ よりよい社会を目指して」も関連して取り上げる。生徒が実際に行っている食に関する消費が環境問題につながっていることを捉えさせることにより、自分も社会の構成員であることを自覚すると同時に、持続可能な社会を構築する主体的な消費者と成り得ることを学ぶことができる。

- 本学級の生徒は、活発な生徒が多く、授業中も発言がよく見られる。昨年度のNRT検査では、歴史的分野に苦手意識をもつ生徒が多く見られ、認知・理解力の伸びがあまり見られなかったため、基礎的知識や理解を要する内容の定着を心掛けてきた。今年度の公民的分野の学習では、資料を基に現状や問題点を把握し、自分の考えをまとめる作業を組み込むことで、社会的事象への興味・関心が高まっている。「私たちと経済」の学習にも積極的に取り組んでいるが、経済的な事象については漠然としたイメージをもつにとどまっている。また、消費に関しては様々な購入方法を実際に経験している生徒も多く、消費行動への関心が高い。既に経済活動を始めている生徒に対して、正しい知識や判断力を身に付けさせることが必要である。
- 指導に当たっては、実際の商品についてその流通経路や商品を取り巻く諸問題の情報について知らせることで商品購入に関して考察させ、自らの消費行動が市民社会の構築および持続可能な社会の実現につながることを理解させ、主体的な消費者となる態度を養いたい。さらに、食育と関連させた授業展開を計画し、技術・家庭科家庭分野担当教員とのチーム・ティーチングを通して健康面・環境面からの商品選択の視点をもたせ、多面的・多角的に思考し判断する力を養いたいと考えている。

3 単元の目標

- (1) 身近な消費生活から経済活動に関する諸問題に着目し、個人の経済活動に関心をもたせる。
- (2) 消費生活や流通に関する事例を基に、経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 消費生活に関する課題や消費者問題について、資料の情報を適切に選択し読み取ったり、まとめたりさせる。
- (4) 経済活動の意義や消費者問題、消費者の権利と契約、流通の役割について理解させ、その知識を身に付けさせる。

4 単元における食育の視点

- ・正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性について自ら判断できる能力を身に付けさせる。
【食品を選択する能力】
- ・消費者の行動は、自分だけでなく商品を生産する世界中の人々や社会全体に影響を与えていることに気付き、主体的に商品を購入しようとする態度を養う。
【食品を選択する能力】

5 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度 【関】	社会的な思考・判断・表現 【思】	観察・資料活用の技能 【技】	社会的事象についての知識・理解 【知】
○身近な消費生活から経済活動に関する諸問題に着目し、個人の経済活動について関心が高まっている。	○社会的な事象から課題を見だし、消費生活や流通に関する事例を基に、経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。	○消費生活に関する課題や消費者問題について、資料を収集・選択し、読み取るとともに、その解決策について自分の考えをまとめている。	○経済活動の意義や消費者問題、消費者の権利と契約、流通の役割について理解し、その知識を身に付けている。

6 単元計画（全6時間 本時6/6）

過程	主な学習活動（○）	教師の働き掛け（○）	評価（・）評価の観点【】	時配
つかむ	○消費行動とはどのようなものかを知る。	○電子黒板を活用して、身近な経済活動と商品を提示することで、生徒の経済に対する関心を高め、よりよい消費生活の在り方について考えることができるようにする。	・身近な消費生活から経済活動に関する諸問題に着目し、個人の経済活動について関心が高まっている。 【関】	1
	○効率よく商品を手に入れるためには、どのような手段があるかを探る。	○流通の役割や流通の合理化の取組について、整理しやすいワークシートを用意することで、生産者と消費者の立場から多面的・多角的に考察することができるようにする。	・消費生活に関する課題や消費者問題について、事例や統計資料を収集・選択し、読み取るとともに、その解決策について自分の考えをまとめている。 【技】	1

	○安全な消費行動のために必要なことは何かを考える。	○消費者トラブルの実例を紹介して何が問題かを指摘させることで、消費者の権利や消費者行政の役割について理解することができるようにする。	・消費者の権利や消費者行政の役割について理解し、その知識を身に付けている。【知】	1
	<p>実際の消費行動では、どのように商品を選んでいるのだろうか（学習課題Ⅰ）。</p> <p>※ふだん、自分（や家族）がどのような点に留意して食品を購入しているかについて、事前アンケート調査を行う。</p>			
調べる	○食品を選択する（1） 食に関する世界と日本の現状を知り、問題点を把握する。	○以下の情報について写真やグラフ等の資料と併せて提示することで、食に関する現状と問題点に気付くことができるようにする。 ・ハンガーマップ（貧困） ・食品ロス（経済格差） ・食料自給率 ・フードマイレージ（二酸化炭素） ・環境破壊（浄化・消費期限） ・ポストハーベスト（健康）	・食に関する現状と問題点を資料から読み取っている。【技】 ・社会的事象から課題を見だし、資料を基に、経済活動における選択について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。【思】	1
	<p>持続可能な社会のために私たちができることを消費の面から考えよう（学習課題Ⅱ）。</p>			
考え・まとめる	○食品を選択する（2） 問題の解決につながる消費の方法について考察する。	○問題点について、自分でも取り組める可能性が高い案を出せるように促す。	・問題を的確に捉え、それらを解決するための方策を多面的・多角的に考え、意見をまとめ提案している。【思】	1
	○持続可能な社会を実現するために、私たちが消費者としてできることを考察する。	○単に反対意見ではなく、よりよい意見となるようなアドバイスができるように促す。	・実現可能な消費行動について、多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現している。【思】	1 本時

7 本時の目標

実現可能な消費行動について、多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

8 展開(全6時間 本時6/6)

学習活動	教師の働き掛け(○)と評価【】
<p>1 前時までの各班の主張を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを知り、見通しをもつ。</p>	<p>○前時までの各班の主張を想起しやすいように、今までの学習の流れや各班の主張の根拠となる資料を電子黒板で提示する。(T1)</p> <p>○意見を聞く上での留意点を説明する。(T1)</p> <p>○反対意見だけではなく、より実現可能性が高くなるような意見を出すようにすることを伝える。(T1)</p> <p>○説得力のある意見を言うことができるように、発言の際は根拠を示して行うことを伝える。(T1)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「持続可能な社会を実現するための消費行動を提案しよう」</div>	
<p>3 ほかの班からの質疑に対する応答を行う。</p> <p>・班の代表者が他の班への質疑に対する応答を簡潔に行う。</p>	<p>○ホワイトボードや小黒板を利用し、意見がまとめやすいようにさせる。(T2)</p> <p>○生徒の発言に対し、小黒板にポイントを付けたり意見の書き足しをしたりして、視覚的に生徒の理解・思考を助ける。(T1)</p> <p>○話し合いを深めることができるように、各教科の専門的な立場から、必要な場合に適宜助言や支援を行う。(T1、T2)</p>
<p>4 質疑に対する応答を聞いて、疑問点が解消できたか、新たな疑問はないか等について班で話し合う。</p> <p>・班内で司会者を決め、3の応答について話し合う。</p> <p>・意見や疑問点があれば、発表する。</p>	<p>○疑問が解消できなかった点や、新たな疑問点がある班に意見を発表させる。(T1)</p>
<p>5 質疑に対し、応答する。</p>	<p>○新たな質問に対する意見を述べることができる班があれば、発表させる。(T1)</p>
<p>6 本時の振り返りをする。</p>	<p>○技術・家庭科の立場から話をする。(T2)</p> <p>○社会の構成員として、主体的な消費者として持続可能な社会を実現するために、食以外でもどのようなことに配慮すればよいかを考えさせる。(T1)</p> <p>実現可能な消費行動について、多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現している。【思】</p>

9 本時の評価

評価規準	実現可能な消費行動について、多面的・多角的に捉え、自分の考えを表現している。 【社会的な思考・判断・表現】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況(C)
	○ほかの班からの意見に対する考えを踏まえて、多面的・多角的に考察し、消費者としてできることについて自分なりの考えを表現している。	○多面的・多角的に考察し、消費者としてできることについて自分なりの考えを表現している。	(B) に達していない状況
→(B)、(C)と判断した生徒への支援		→話合いで出たほかの班の意見に対する考えを問い掛け、記述するように促す。	→ワークシートを基に問い掛けを行い、実現可能な消費行動について説明する。
評価方法	ワークシートへの記述		